

河川生態学術研究の河川管理への応用

千曲川では、砂利採取等による河床低下により流路が固定し、高水敷きが洪水により冠水しにくくなったため、アレチウリ、ハリエンジュといった外来種が進入・拡大し、河原特有の植物が減少しています。

このため、河岸を緩い勾配で掘削することにより洪水時の冠水頻度を高め、ヨシ・ヤナギなどの水際植生などが形成される河川環境の創出を図り、また、水辺植物帯を再生・維持することにより、維持管理コストの縮減に努めています。

また、冠水頻度が低い高水敷については、「住民協力による計画的な公募伐採」等を促進し、維持管理費のコスト縮減に努めています。

